



道新ワークシート

年 組 名前

COP29

国連気候変動枠組み条約第29回締約国会議（COP29）は、発展途上国の地球温暖化対策を支援する新たな資金目標に合意した。大量の温室効果ガスを排出してきた責任に見合う拠出を先進国に求める途上国と、負担軽減を図る先進国の対立が鮮明となり、会期は2日も延長。最後の全体会合でも合意に至った達成感はなく、要求から程遠い幕切れに途上国の憤りが会場に渦巻いた。

「深く失望した」。閉幕 予定日の22日に議長国アゼルバイジャンが示した合意文書案に、既に温暖化の深刻な影響下にある小島しょ国グループは怒りをあらわにした。

途上国は年1兆3千億ドル（約200兆円）規模の資金を要求。再生可能エネルギーの導入など温暖化対策のほか、既に生じた異常気象に伴う災害復旧などに多額の資金を必要とするからだ。債務の増大を避けるため、先進国からの無償供与が大半を占めることを望んだが、示された先進国からの資金は年2500億ドルと要求から懸け離れていた上、資金の貸し付けや投資を含むものだった。

特に先進国に起因する温暖化による自然災害に見舞われている低所得国は、自分たちへの割当額を明示するよう強く求めたがかなわず反発。「議長国は他国からのアドバイスを聞き入れないらしい」。各国代表団や非政府組織（NGO）の間には議長采配への不安が渦巻く中、閉幕予定日は早々に過ぎ去った。

温暖化対策 要求程遠く 先進国と対立鮮明

み込んだ数字だ」（浅尾慶一郎環境相）とアピールしたが、さらなる上積みには慎重姿勢。ただ、途上国側も交渉決裂で何も残らなくなる事態は望まなかった。

結局、会期を2日延長した閉幕日の24日未明に出た最終的な合意文書案でも支援額の上積みはなかった。閉幕の全体会合で、アゼルバイジャンのババエフ議長は議題を読み上げると、異議申し立ての確認時間も取らずつちを振り下ろし、採択を宣言した。直後、インド代表は「合意は目の錯覚だ。私たちが直面している課題の巨大さに対処できるものではない」と反対を明言。会場に拍手が湧き起こった。

ただ合意成立により、国際協調に背を向けるトランプ米次期政権の誕生を前に気候変動対策が勢いを失う事態は避けられたとみるのは世界自然保護基金（WWF）ジャパンの山岸尚之さんだ。「たとえ不十分だとしても、国際協力をつなぎとめることはできた」（バクー共同）

2024年11月26日（火）朝刊 全道版 8ページ（記事は再編集しています）

(1) 記事から読み取れる内容として、次の文章の内容が正しい場合は「○」、正しくない場合は「×」と答えなさい。

- ① 「COP29」の「29」は参加している国の数を表している。 ()
- ② 会期が2日延びたが、最終的には新たな資金目標に合意した。 ()
- ③ 途上国側の望む通り、3000億ドル（約46兆円）の資金提供となった。 ()

(2) 傍線「先進国と対立鮮明」とあるが、どのように対立していたのか。

「途上国側」と「先進国側」の二つの語句を必ず用いて六十字以内で答えなさい。

(3) 今回の途上国と先進国のように、異なる立場間で合意形成をするときに大切なことを答えなさい。